

明治大学の教育

PROFILE



須田 努
SUDA Tsutomu

情報コミュニケーション学部教授
情報コミュニケーション学部長
専門：日本近世・近代史 社会文化史・民衆史
1959年 群馬県生まれ
1981年 明治大学文学部史学地理学科考古学専攻卒業
1999年 早稲田大学大学院文学研究科日本史学専攻博士後期課程修了 博士(文学)
2008年 明治大学情報コミュニケーション学部准教授
2011年から現職

主な著書・論文
『「悪党」の一九世紀』青木書店、2002年
『イコンの崩壊まで』青木書店、2008年
『幕末の世直し』吉川弘文館、2010年
『江戸時代 民衆の朝鮮・朝鮮人観』『思想』1029、2010年
『吉田松陰の時代』岩波書店、2017年
『三遊亭円朝と民衆世界』有志舎、2017年

所属学会
アジア民衆史研究会、歴史学研究会、東京歴史科学研究会、歴史科学協議会

文化を尊重することも本学部の特質であり、ジェンダーやセクシュアリティにとらわれない公正な社会実現のための双方向コミュニケーションのあり方を追求するジェンダーセンターを設置してあります。

この学部理念を支える3つの柱があります。一つ目は「社会の〈現在〉を捉える」です。現代社会は高度情報社会に突入しました。さまざまな情報が直接、政治や経済の在り方に影響を与えています。情報を発信することの責任が問われています。AIをめぐる議論も盛んになり、「人間とはなにか」ということが問題とされています。本学部はこうした現実と向き合い、そこでの問題を主体的に解決することを目指しています。二つ目は「多様で学際的なアプローチ」です。高度情報社会の問題は複雑で多岐にわたります。その解決にはさまざまな分野の知の協働が必要となります。本学部では、社会科学を軸にしながら、人文科学・自然科学が融合し、それに取り組むための知

「ガクの情コミ」 学部理念と3つの柱

情報コミュニケーション学部は「ガクの情コミ」を掲げていきます。この「ガク」とは学・楽を表しています。本来勉学とは楽しい知的営為であり、もちろん研究は創造的なものです。本学部は、学生がそのことを実感できる環境を整えています。

本学部の理念は、高度情報社会における人間と社会のあり方を「情報コミュニケーション」という視点から究明することにあります。また、多様なやささまざまな価値観・



ジェンダーフリーをイメージしたパリの街区

の育成を図っています。そして三つ目は「創造と表現」です。本学部では、学生が自ら何かを創造し、それを表現することを支援します。ただし、それは思いつきのパフォーマンスではありません。「ガクの情コミ」が重視しているのは、知を背景とした創造であり、表現なのです。論文も創造と表現の成果と言えます。問題意識をもってテーマを選定し、先行研究を精査することからはじめて創造（独創）は生まれるのです。

「マイカリキュラム」

本学部は2021年度から、卒業論文の単位化を導入するなど、学生の勉強と研究の環境をより整えるカリキュラムの改訂を行いました。それを「マイカリキュラム」と名付けています。1・2年次では、社会科学・人文科学・自然科学の3フレームから計10単位以上履修する必要がありますが、必修科目は外国語科目と「情報コミュニケーション入門」など、ごく少ない設定となっています。3・

「ガクの情コミ」のゼミナール

4年次では、社会システム・文化と表象・人間と環境の3つのフレームから自身の興味・関心に合わせて自由に専門科目を履修することができます。必修科目は一切ありません。「マイカリキュラム」では、自己の問題関心に従い、主体的にカスタマイズした科目履修が可能となります。わたしたちは、それを支援するために「履修モジュール」という参考モデルを100種類ほど用意してあります。

本学部はゼミナール教育にも力を入れています。それこそが「ガクの情コミ」の真髄とも言えます。ただし、ゼミは必修ではありません。これも本学部のよいところ。1年次の「基礎ゼミナール」は、専門書を読み解き、議論を展開する、といった研究の基礎について年間を通じてじっくり学びます。2年次の「問題発見テーマ演習」では、より専門的なゼミが春学期・秋学期と分かれて設置されています。年間で同一のゼミを履修するこ

ナ経済回廊研修プログラム」といったように一定の目的を持ったもので、「ミッション遂行型現地留学」と名付けています。そして、三つ目はいよいよ実際の現地留学です。本学部は、タイのシーナカリンウィロート大学やドイツのゲーテ大学など独自の協定校を有しています。以上の3つのステップによる立体的な国際交流プログラムによって、世界を知り、多様な視点を持つ教養を会得できるはずですが、

Webを用いた教育・研究

コロナ禍によって大学教育は大きく変わろうとしています。大学教育の本質は、教員と学生、および学生同士の直接のコミュニケーションによって知を高めてゆくことにあります。幕末の大坂に存在した緒方洪庵の適塾のように、それを踏まえつつも本学部は、Webを教育・研究活動に活用してゆく予定です。そのメリットの一つは、映像・資料を入れ、実在感ある教材を作成できることです。また、学生はこのオンデマンド講義を何度

とも、異なったゼミを選ぶことも可能です。そして、2年次の秋学期には3年次以降に所属するゼミの入室試験があります。それまでの期間で、学生は「履修モジュール」を参考に研究プラン（履修計画）を作成し、教員のアドバイスを受けながら、進むべきゼミを決定します。3年次の「問題分析ゼミナール」から4年次の「問題解決ゼミナール」は、2年間同じゼミに所属します。学生は興味を持った研究テーマに従いゼミを選択し、2年間じっくり研究に取り組みます。「マイカリキュラム」では卒業論文を単位として認めているゼミもあります。卒業は必修ではありませんが、情コミでの4年間の勉強と研究の成果を論文として残すということに興味があります。わたしたち情コミの教員は、意欲のある学生を研究面でサポートしてゆきます。

「ガクの情コミ」の立体的国際交流プログラム

本学部は国際交流にも力をいれており、

三段階の立体的なプログラムを設置しています。一つ目は「世界のキャンパスから」です。本学部の教員はそれぞれの専門領域において国際的研究交流を実行しています。そこで蓄積した経験をもとに、世界中の研究機関・教育機関から研究者を招聘し、最先端の学問・研究について講義してもらいます。2018年度からスタートし、現在まで約1000人の学生が履修しました。この授業に参加することにより、自分の問題関心や研究を実行するには、どの地域(国)に留学すればよいかかわります。二つ目は休暇期間を利用した短期留学プログラムです。それは、単なる語学留学ではなく、「インドシ

でも視聴することができ、短期間で集中的に受講し単位を修得することも可能となります。これによって「ミッション遂行型留学」や、現地留学への参加機会が広がります。二つ目のメリットは遠隔地(海外)とのコミュニケーションが可能という点です。2020年度秋学期には、海外の協定校の学生が本学部のオンライン授業を聴講できる「オンライン・プレ留学」を開始しました。そして三つ目は自由参加型の研究交流の活性化です。すでに、Webを利用した「ガクの情コミバーチャル研究交流祭」によって、学年の枠を超えて、多様なゼミの学生が研究発表・議論を展開しています。これによって多くの学生の自己主張の場が広がっています。そして、先述した卒業論文単位化にも応用できます。Webを活用した中間発表会では、一定期間、何百人もの学生がWeb上に、卒業作成の概要をポスターセッションの要領でアップし、各分野の教員が意見を書き込むこととなります。これは実にワクワクする企



「世界のキャンパスから」の様子

和泉・駿河台のゼミをつなぐ
オンラインイベント
Zoom開催

2020.12.12 sat

プログラム

Opening ceremony 9:40-9:55
学部長挨拶、実施説明

1st 10:00-12:00
【発表者】基礎ゼミナール
【内容】活動紹介や研究発表

Poster session
12:00-13:00

2nd 13:00-15:00
【発表者】問題分析ゼミナール
問題解決ゼミナール
【内容】研究発表

Closing session 15:05-15:25

見学のみの参加も大歓迎!!
詳細はOh-o! Meijiをチェック!

Virtual Research Presentation Festival

「ガクの情コミ」バーチャル研究交流祭

「ガクの情コミ」バーチャル研究交流祭

画です。また、教員達による「ガクの情コミ学際研究ラボ」もWebで展開する予定です。これはある一定のテーマについて、さまざまな研究分野の教員の研究報告・討論をWeb上で公開し、学生が自由に参加できる形にしたものです。わが「ガクの情コミ」の概要紹介は以上となります。魅力的な学部であることをご理解いただければ、学部長として望外の喜びです。